

**Citation:** Esposito M, Grusovin MG, Martinis E, Coulthard P, Worthington HV. Interventions for replacing missing teeth: 1- versus 2-stage implant placement. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2007, Issue 3. Art. No.: CD006698. DOI: 10.1002/14651858.CD006698.  
**CRG名:** Oral Healthn

## [最新版\(英語版\)はこちら](#)

**英語版最終改訂年月:** 10 May 2007  
**Clib issue No.;** N/U: 2008 issue 1; -

**背景:** インプラント治療には、インプラント埋入時にアバットメントを口腔粘膜上に露出させる1回法と、インプラント表面の骨が治癒する間、口腔粘膜下に完全に埋めてしまう2回法がある。2回法では、インプラントに加わる望ましくない負荷を最小にすることができる。しかし、ヒーリングアバットメントを連結するために2次手術が必要となる。また、この2次手術に伴って創傷治癒期間が必要になり、補綴処置開始まで更なる期間を要する。

**目的:** 1回法インプラント治療が2回法と同じ程度に有効であることを評価する。

**検索戦略:** Cochrane Oral Health Trials Register、Cochrane Central Register Controlled Trials、MEDLINE、EMBASEを検索した。

歯科雑誌のハンドサーチも行った。未発表のランダム化比較試験(RCTs)がないかを確認するため、すべての試験の著者と、インターネットディスカッショングループ、55のインプラントメーカーにコンタクトを取った。最新のインターネット検索は2007年1月15日に実施された。

**選択基準:** 歯根型骨結合歯科用インプラントについてRCTsを行った。2ピース歯根型骨結合歯科用インプラントを用い1回法と2回法について比較し、追跡期間は荷重後、最短で6ヶ月間とした。本研究のアウトカムは、補綴物の失敗、インプラント体の失敗、エックス線写真によるマージン部骨レベルの変化、審美性に関する患者の満足度、歯科医による審美性の評価、合併症である。

**データ収集と分析:** 選択基準に合致した研究論文のスクリーニング、研究内容の質的評価とデータの抽出は、2名のレビューアによって個別に2回行われた。不明情報は著者に問い合わせた。連続変数アウトカムの結果は、平均差を用いたランダム効果モデルで、二分変数アウトカムの結果については、95%信頼区間と相対リスクを用いて表現した。不均一性は臨床的、方法論的要素の両面から検討した。

**主な結果:** 3つのRCTsが見出され、総計45名の患者を対象にした2つの試験が評価された。インプラントの本数でなく患者を単位にした場合、統計学的に有意差は認められなかった。

**レビューアの結論:** 臨床試験における患者数が少ないため、信頼性の高い結論を導くことはできなかったが、2つの術式のアウトカムに臨床的な有意差があるとは言えなかった。もし、これらの予備的試験の結果が、よりしっかりした臨床試験により確認されれば、1回法は場合によっては、望ましい方法といえるかもしれない。なぜなら、外科処置の回数を減らし、最終補綴までの待ち時間を短縮できるからである。しかし、インプラント埋入時にインプラント体の十分な安定が得られなかったり、インプラントと同時にメンブレンを用いたりする場合には、2回法が望ましい場合もあるだろう。

(翻訳 中村俊雄・監訳 窪木拓男; JCOHR)  
翻訳公開日: 08年4月1日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点があれば、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。

